

# 令和5年度 東京の水産業振興に向けた専門懇談会（第1回）

## 次 第

日 時 : 令和5年7月26日（水）  
10時00分～11時50分  
場 所 : 都庁第一本庁舎42階特別会議室C・D

### 1 開会

### 2 第一部

#### （1）座長選任

#### （2）議事

議題 東京の水産業振興に向けた意見交換

#### （3）その他

### 3 第二部

#### （1）知事挨拶

#### （2）出席者紹介

#### （3）基調講演

「ブルートランスフォーメーション ー食料安全保障のための漁業・水産戦略ー」

国際連合食糧農業機関駐日連絡事務所 日比絵里子氏

### 4 閉会

## 東京の水産業振興に向けた専門懇談会 専門家等名簿

氏 名	現 職 等
木村 伸吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科／大気海洋研究所 教授
関 いずみ	東海大学人文学部 教授
副島 久実	摂南大学農学部 准教授
中奥 龍也	全国内水面漁業協同組合連合会 専務理事
三浦 秀樹	全国漁業協同組合連合会 常務理事

(五十音順、敬称略)

## 基調講演者

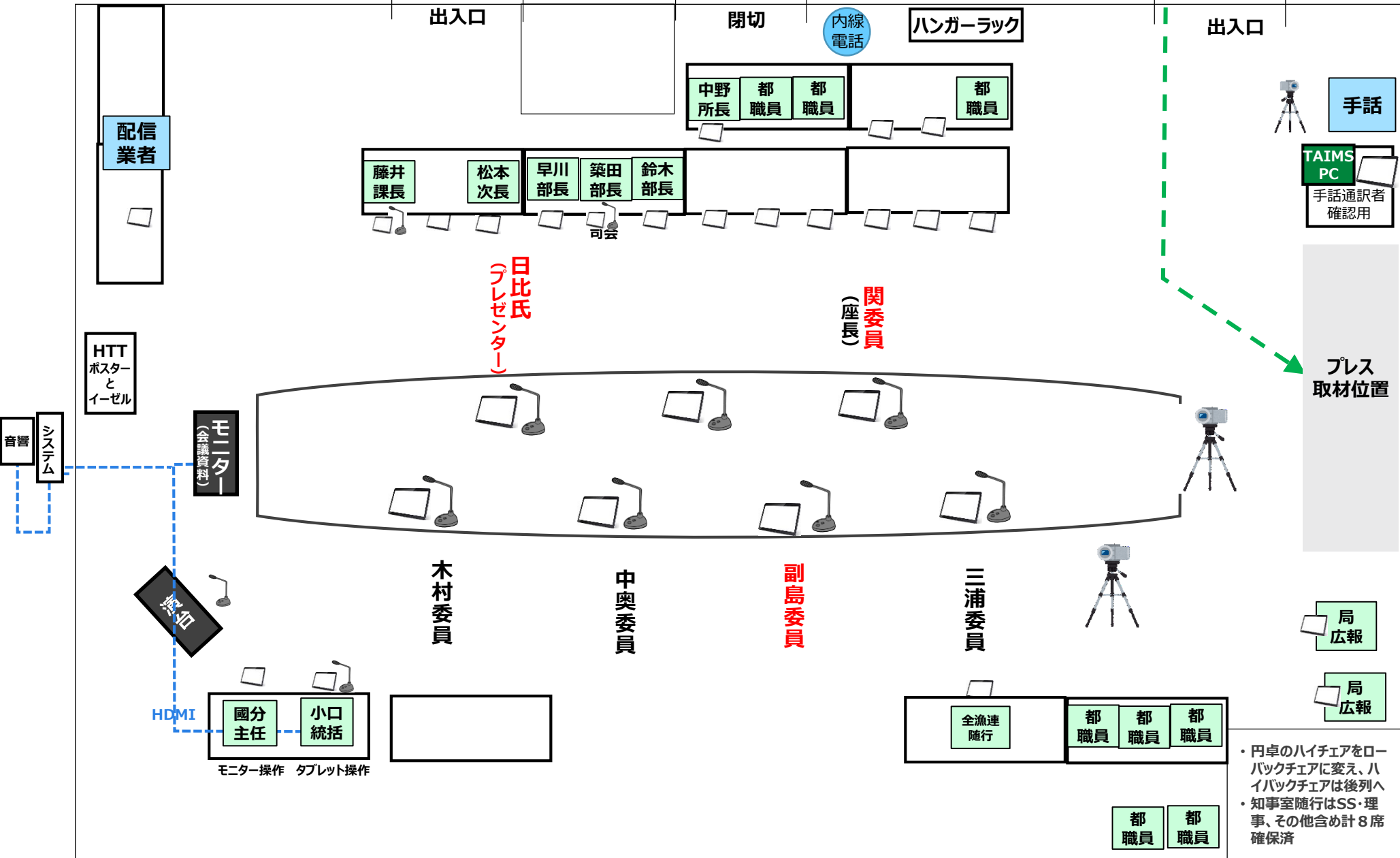
氏 名	略 歴
日比 絵里子	<p>国際連合食料農業機関（F A O） 駐日連絡事務所長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ F A O職員として欧州、アジアなど世界各地で開発援助や人道支援に携わる</li> <li>・ 太平洋諸島地域での沿岸漁業振興にも尽力</li> </ul>

# 令和5年度第1回東京の水産振興に向けた専門懇談会(第一部)

7/26(水)10:00~11:10 @第一本庁舎42階北 特別会議室C・D

※ 赤字は女性委員

メディア動線  取材受付



・円卓のハイチェアをローバックチェアに変え、ハイバックチェアは後列へ  
 ・知事室随行はSS・理事、その他含め計8席確保済

# 令和5年度第1回東京の水産振興に向けた専門懇談会(第二部)

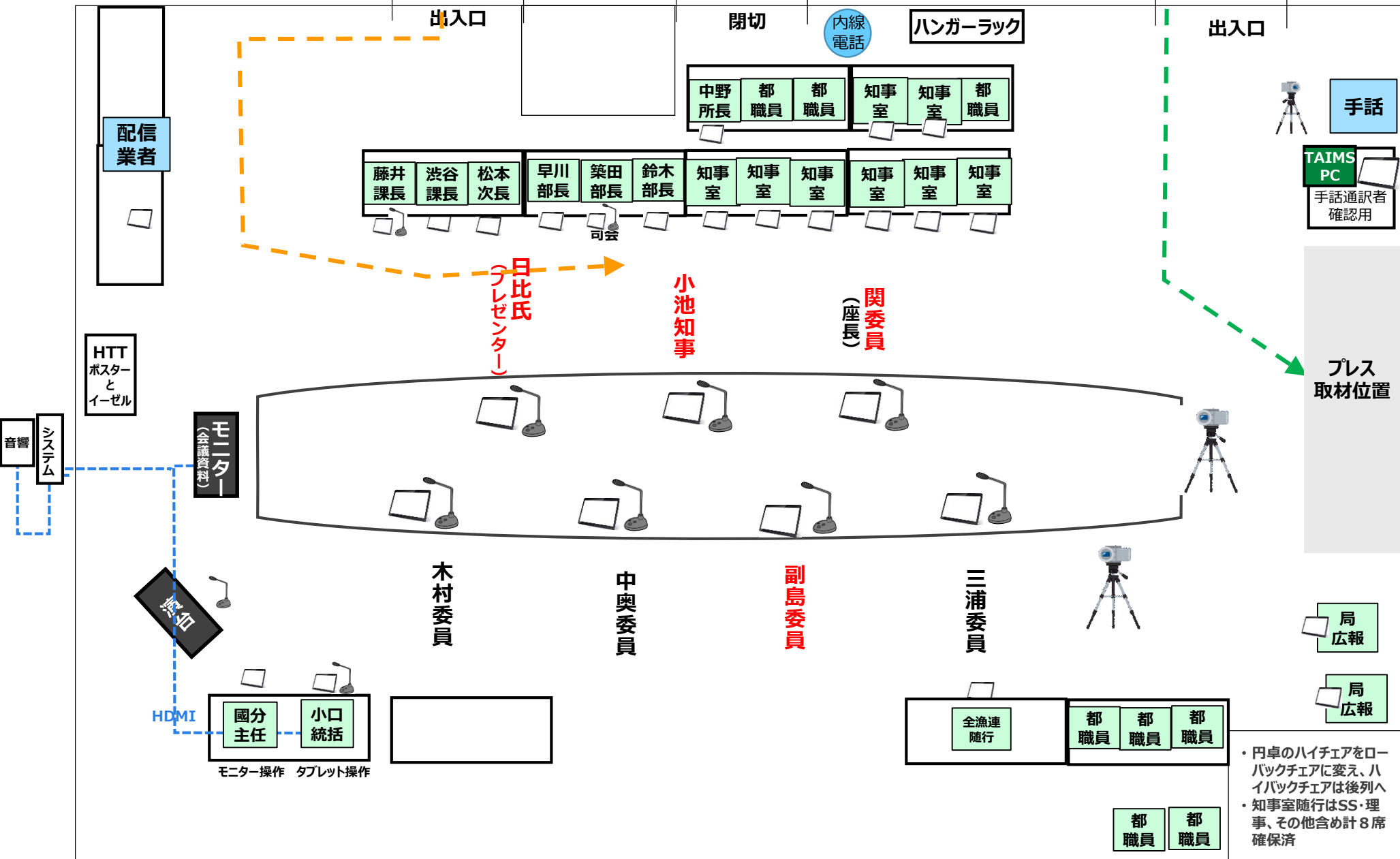
7/26(水)11:30~11:50 @第一本庁舎42階北 特別会議室C・D

※ 赤字は女性委員

知事動線

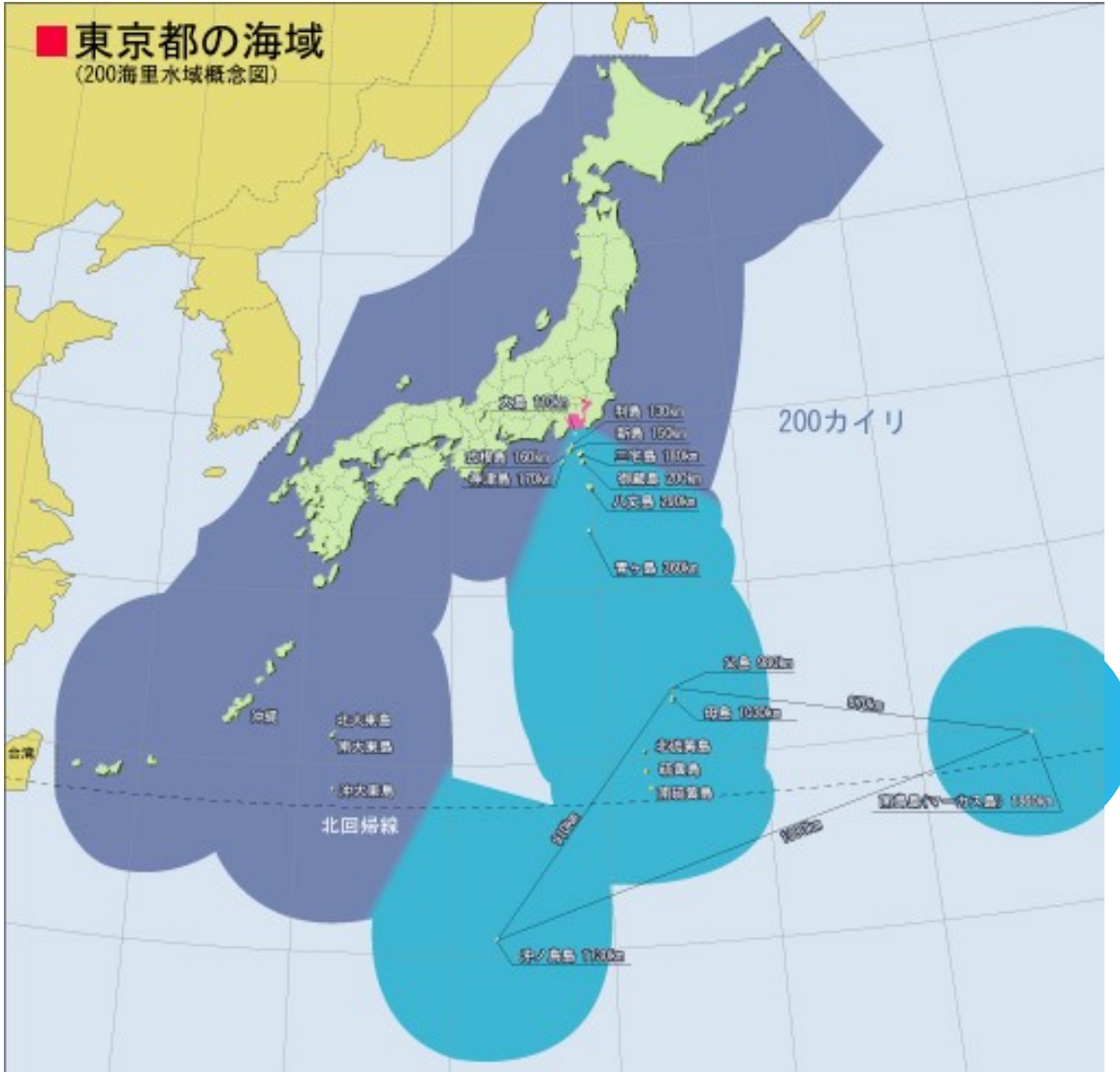
メディア動線

取材受付



# 東京の水産業 概要

■ 東京都の海域  
(200海里水域概念図)



東京の離島周辺の  
排他的経済水域は  
日本全体の **38%**

東京都の漁業の中心は  
伊豆・小笠原諸島

都市化の進む中でも営まれている  
東京湾、河川の漁業

# エリアごとに特色のある東京の水産業

## 東京内湾

東京湾



アサリ



スズキ



アナゴ

## 伊豆諸島

大島、利島、新島、  
式根島、神津島、  
三宅島、御蔵島、  
八丈島、青ヶ島



キンメダイ



メダイ



テングサ

## 小笠原諸島

父島、母島



ハマダイ



カジキ類



マグロ類

## 内水面

多摩川、荒川、江戸川



アユ



マス類



シジミ

# (1) 島しょ地域の漁業

○好漁場の伊豆諸島・小笠原諸島周辺海域は、都の漁業者のほか、全国からの多くの漁業者も操業

○都の漁業は、20トン以下の小型漁船による1～2人乗りの日帰りを中心とした操業

伊豆諸島：底魚一本釣り漁業（キンメダイ等）、曳き縄漁業（カツオ・マグロ類）、潜水漁業（テングサ等）、棒受け網 等

小笠原諸島：底魚一本釣り漁業（ハマダイ等）、たて縄漁業（メカジキ等）、さんご漁業 等

○静穏な海域が少なく、養殖生産量は僅か



底魚一本釣り漁業



曳き縄漁業



棒受け網漁業



潜水漁業



カジキたて縄漁業



とびうお流し刺し網漁業

## (2) 東京内湾の漁業

- かつては、広大な干潟を有し、ノリ養殖や、採貝漁業などが営まれ、全国でも有数の水揚げ
- 高度成長期の水質汚染や、埋め立てによる漁場縮小に伴い漁獲量は大きく減少
- また、都市開発を優先させるため、漁業権、漁業許可が廃止され、多くの漁業者が転廃業
- 本来、生産性の高い海域であり、現在も残された漁場で「江戸前」の水産物を都民に供給



一面に広がるノリ養殖場（昭和30年代）



埋め立ての進んだ現在の東京湾

### 東京内湾で獲れる主な魚種



アサリ



スズキ



マアナゴ

### 東京内湾海域図





### (3) 内水面の水産業

- 多摩川、江戸川、荒川で、シジミやアユ、ウナギなどが漁獲
- 多摩地域では、マス類の養殖業が営まれ、江戸川区では現在も金魚養殖が継承



シジミ貝まき漁業（大田区）



マス類の養殖（奥多摩やまめ）



金魚の生産（江戸川区）

### (4) 水産加工業

- 新島、八丈島などを中心として、伊豆諸島の特産である「くさや」が製造
- 近年は、漁協女性部などが、学校給食への水産物提供等を行い、水産加工業の担い手として期待



くさや加工場（八丈島）

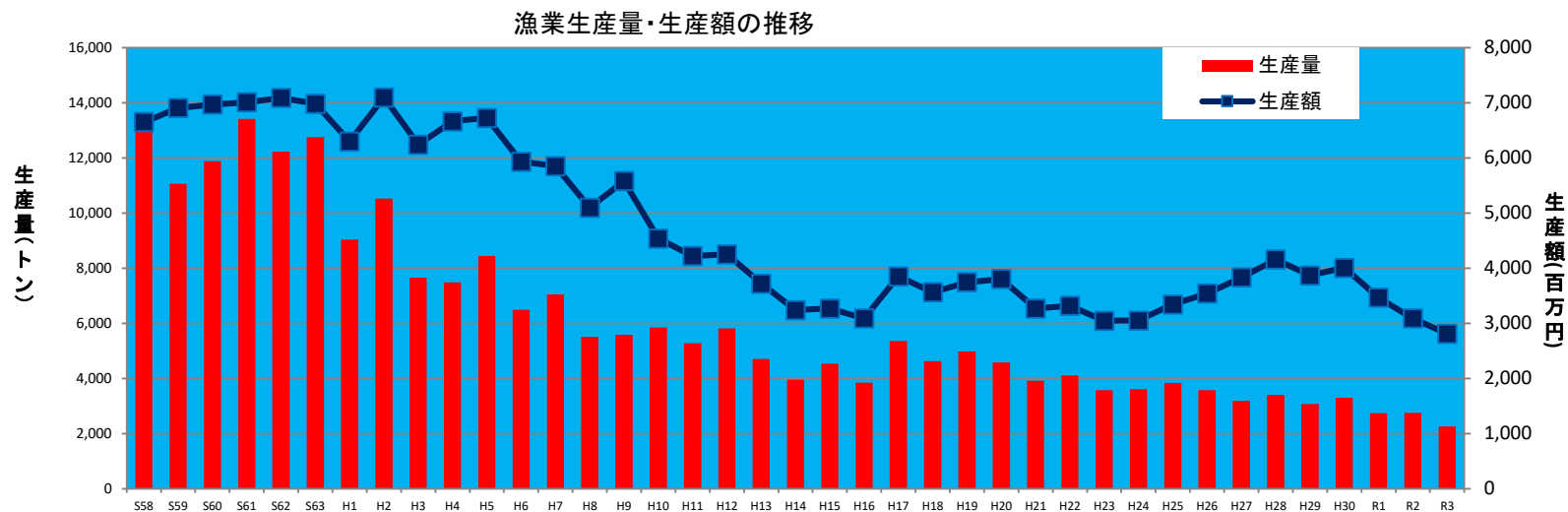


漁協女性部の水産加工場（八丈島）

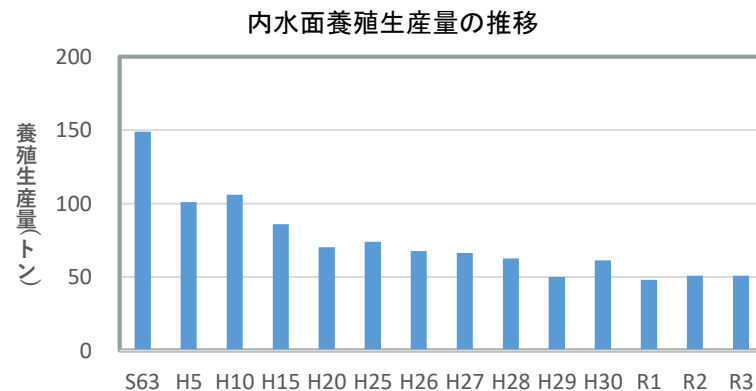
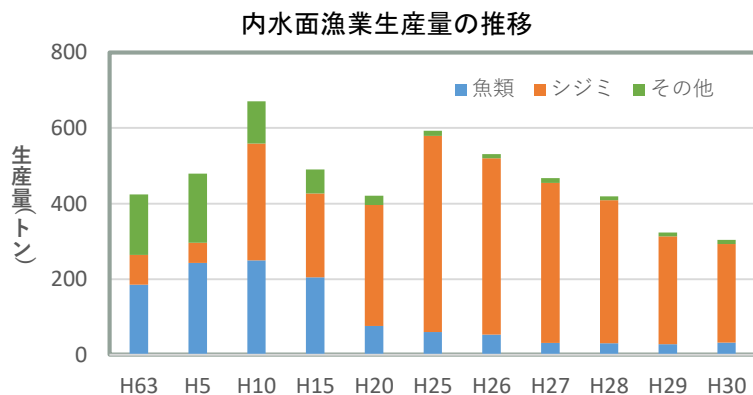


## (5) 漁業生産量の推移

- 海面漁業生産は、ここ10年の生産量は3,000～4,000トン台、生産額は30～40億円台で推移
- 回遊魚の減少や、磯焼けの進行などにより、長期的に減少傾向
- 大型船の沖合漁業も行われていた最盛期の昭和50年頃に比べると3割以下にまで減少



- 内水面漁業生産量は304トン (H30)、漁獲量の約9割がシジミ
- マス類の内水面養殖生産量は62トン (H30) で、養殖事業者の減少に伴い生産量は漸減

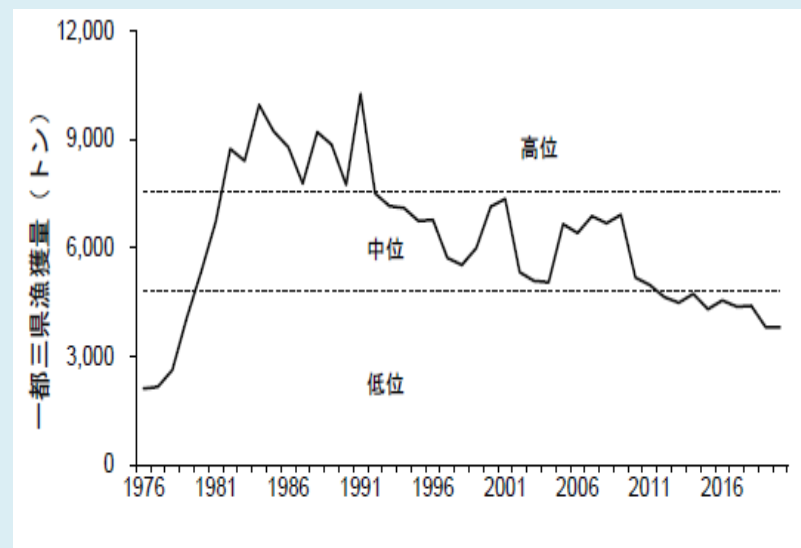
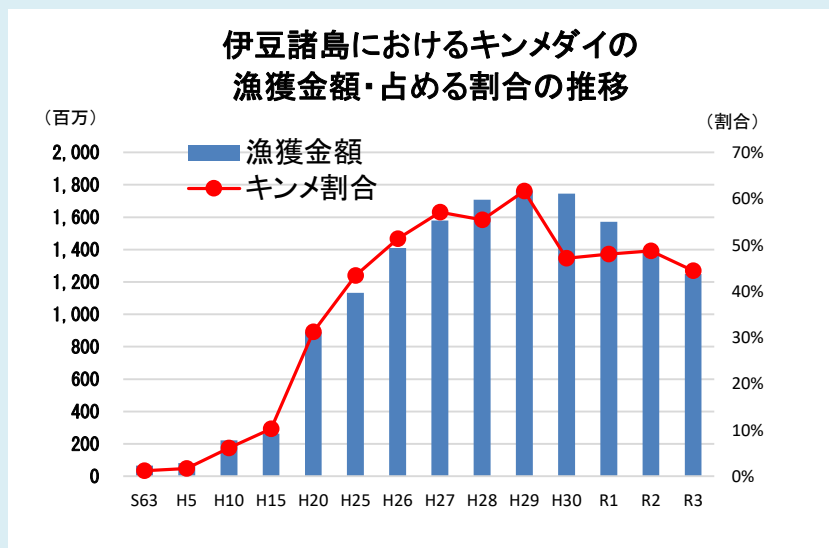


# 東京の水産業の現状と課題(資源管理の推進①)

## (1) 漁獲の低迷とキンメダイへの依存の高まり

### 【現 状】

- 伊豆諸島でのキンメダイの漁獲金額割合は約4～6割に上昇
- 漁業者は自主的資源管理を実施する中、資源水準は「低位」、資源動向は「横ばい」(R3)
- 国によるキンメダイ等の漁獲量管理(TAC)化の検討



### 【課 題】

- 改正漁業法に基づくキンメダイ等資源管理の推進
- 資源管理に取り組む漁業者の経営安定化

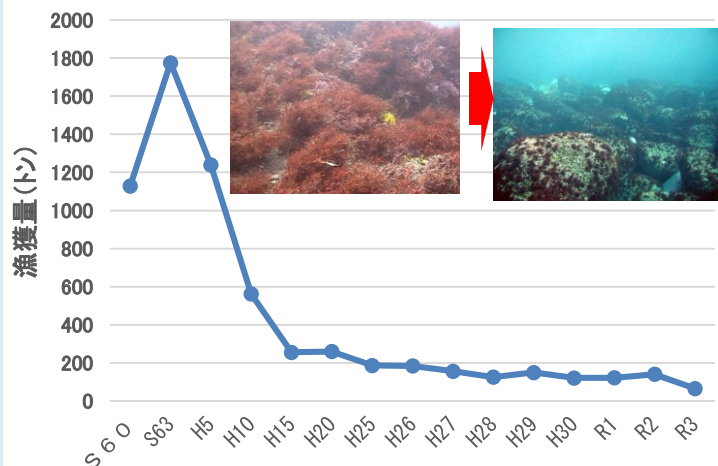
# 東京の水産業の現状と課題(資源管理の推進②)

## (2) 磯根資源の減少

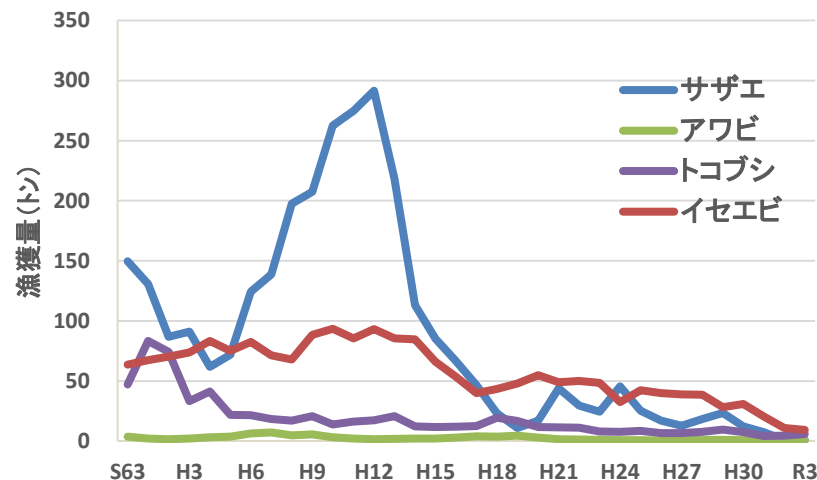
### 【現 状】

- 磯焼けが常態化し、アワビ、トコブシ、テングサ等の磯根資源が減少
- 二酸化炭素吸収源としてのブルーカーボンへの注目の高まり

テングサの漁獲量の推移



磯根資源の漁獲量推移



### 【課 題】

- 海水温の上昇など、海洋環境の変化に対応した漁場の造成や栽培漁業の展開
- 藻場の保全・創造によるブルーカーボンなど、持続可能な社会の実現への貢献

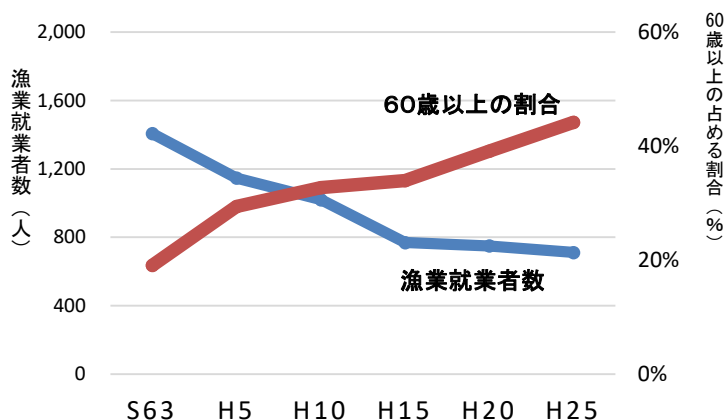
# 東京の水産業の現状と課題(担い手確保・育成)

## 担い手の減少と高齢化が進行

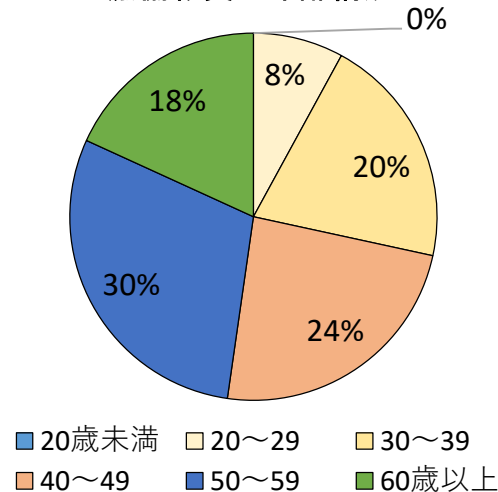
### 【現 状】

- 都の漁業就業者数は、10年間で約3割減少、60歳以上の割合は4割以上に上昇(H30)
- ベテラン職員の退職に伴う漁協業務体制の脆弱化

島しょ地域の漁業就業者数と60歳以上の占める割合



漁協職員の年齢構成



### 【課 題】

- 漁業後継者、漁協職員等の漁業関係人材の確保・育成
- 先端技術等を活用した漁協業務の効率化など収益力強化
- 漁村を支える女性の活躍促進

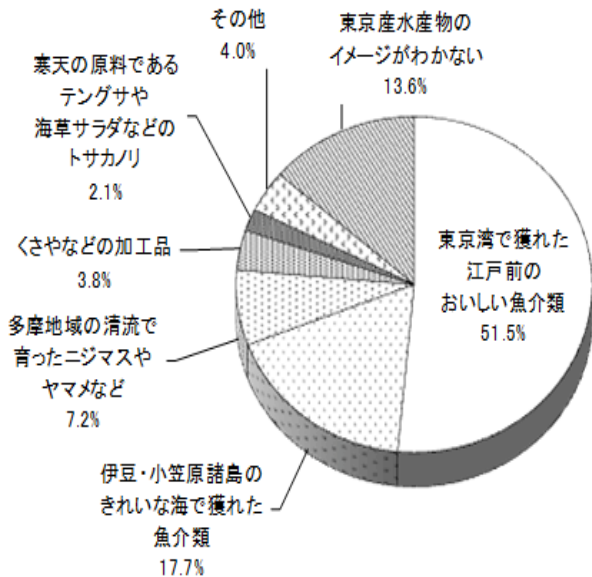
# 東京の水産業の現状と課題(稼ぐ水産業の実現)

## 認知度、市場評価の低い東京産水産物

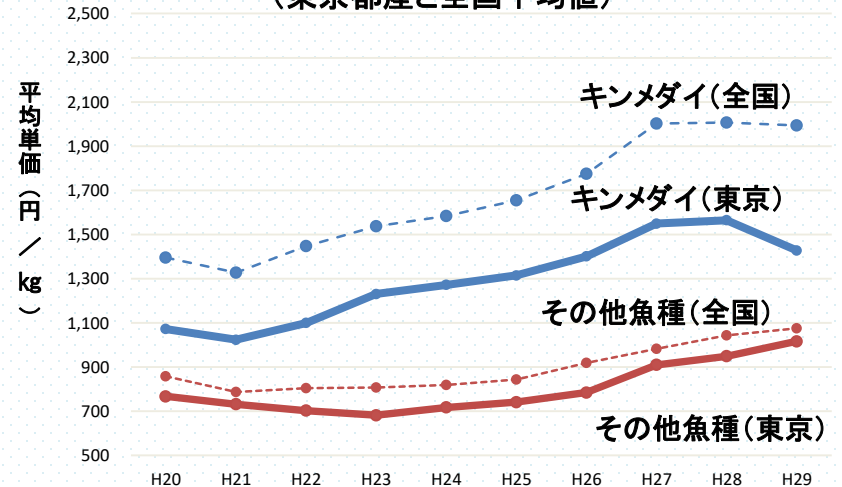
### 【現 状】

- 伊豆諸島・小笠原諸島で水揚げされる水産物の認知度が低い
- 東京産水産物の平均単価が全国平均に比べて低い

東京産水産物のイメージ



魚類の平均単価の比較  
(東京都産と全国平均値)



### 【課 題】

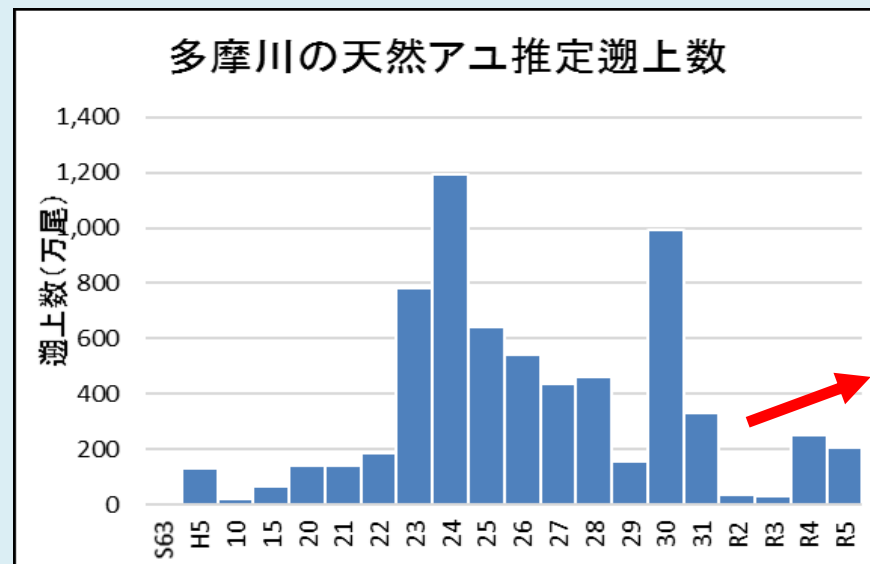
- 流通の各段階に応じたPR戦略の構築や、学校での食育活動の展開
- 漁獲の減少や魚種組成が変化する中での、水産物のブランド化等マーケット戦略

# 東京の水産業の現状と課題(内水面の振興)

## 遊漁者の減少と厳しい内水面漁協経営

### 【現 状】

- 河川遊漁者の減少による内水面漁協の経営悪化
- 多摩川の天然アユの遡上数は、台風(R1)被害から回復傾向にあるものの、最盛期の遡上数との乖離は大きい



### 【課 題】

- 都内河川の魅力PRのための情報発信等集客力向上
- アユの遡上促進と資源としての利活用